令和6年度　引佐北部小中学校　学校評価

【学 校 の 理 念】　みんなでつくる「みさと」の学校
【学校教育目標】　心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成

1.　令和6年度の取り組み

心豊かに生きる児童・生徒	たくましく生きる児童・生徒
○自分も他人も大切にできる　○互いに認め合える　○互いに高め合える	○主体的に取り組む　○挑戦し続ける

【学校運営の重点】
① 児童・生徒の主体性の育成 （各教科授業・特別活動・部活動等すべての教育活動を通して主体性を育む、「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識の向上）
② 授業における個別最適な学び、協働的な学びの推進 （積極的な ICT の活用・授業改善、ドリルパーク・jamboard 等の活用、リモートによる他行等との連携）
③ 複式学級の運営と指導の充実 （第3・4学年での実施と指導向上のための研修の推進）
④ ふるさと科、国際コミュケーション科の充実 （探究的な学習の推進・生徒主体による「模擬会社きりやま」の運営、外国人留学生や他校との交流、日常の授業における表現活動の充実）
⑤ 児童・生徒理解と個に応じた支援の充実 （年度始め・日常における共通理解、就学支援委員会・発達支援教室の充実）
⑥ いじめの未然防止と早期発見・組織対応 （人権教育・道徳教育の充実、安心できる居場所づくり、振り返り・いじめアンケートの着実な実施と確認、積極的ないじめ認知・組織的な早期対応）
⑦ 家庭学習、長期休業中の課題の見直し、保護者との共通理解 （主体的な学習・継続的な探究学習の推進、タブレット端末を活用した学習の推進）
⑧ 社会に開かれた教育課程の推進 （学校運営協議会との連携（基本方針の共有・教職員や児童生徒との協議）、地域での学び・地域の方による学習支援の充実）

2.　自己評価

○　児童の評価

		評価項目（文章は高等部の評価項目）	肯定的
豊かに	1	それぞれの人の思いや考えを認め合うことができた。	85%
	2	夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができた。	85%
たくましく	3	自ら目標を立て、計画的に取り組むことができた。	82%
	4	夢や目標の実現に向けて、挑戦し続けることができた。	75%
重点目標	5	学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができた。	84%
	6	自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができた。	79%
	7	様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができた。	90%
	8	先生たちは、自分のことを分かってくれて、自分に合った支援をしてくれる。	82%
	9	「いじめ」を許さず、みんなが安心して過ごせるように考えて行動できた。	89%
	10	悩みがあるときはアンケートや教育相談などで、先生に相談しやすく安心できた。	70%
	11	進路を視野に入れて、自分に合った学び方を見付けて、家庭学習に取り組んでいる。	73%
	12	地域の方から学んだり、共に活動したりして、温かい関係を築いている。	90%

○　保護者の評価

		高等部保護者の評価項目	肯定的
豊かに	1	お子さんは、周りの人の思いや考えを認め合うことができている。	88%
	2	お子さんは、夢や目標の実現に向けて、互いに高め合うことができている。	80%
たくましく	3	お子さんは、自ら目標を立て、計画的に取り組むことができている。	69%
	4	お子さんは、夢や目標の実現に向けて、挑戦し続けることができている。	71%
重点目標	5	お子さんは、学習や行事、様々な活動に「自分たちの学校は自分たちでつくる」意識をもって主体的に取り組むことができている。	76%
	6	お子さんは、自ら目標を立てて学習し、振り返りを生かして計画的に課題解決に向けて取り組むことができている。	59%
	7	お子さんは、様々な人と思いや考えを認め合いながら、協働的に学びを深めることができている。	76%
	8	学校は、一人ひとりの子供のことを理解し、個に応じた支援を行うよう努めている。	80%
	9	学校は、いじめを生まない環境をつくり、誰もが安心できる居場所つくりに努めている。	63%
	10①	学校は、児童生徒が困ったときや悩みがあるとき、相談しやすく安心できた。	85%
	10②	お子さんの話を聞いたり、様子や変化を学校と共有したりして、子供理解に努めている。	92%
	11①	学校は、児童生徒が、発達段階に応じて自分に合った学び方を見付けられるように、主体的に家庭学習に取り組めるように支援できた。	67%
	11②	「家庭学習について」をもとに、進路を視野に入れて、目標に向かって家庭学習に取り組めるように見届けている。	69%
	12	学校は、地域と連携・協力して教育活動を行っている。	84%

○　職員の評価

○互いの思いや考えを認め合う意識が育まれている。人との関わりが少しずつ上手になってきている。
○「主体的」に取り組む、取り組めるようにすることを職員も児童生徒も意識することができた。反面、表れとしては、依然として指示を待つ子もあり、「自分で考えて行動する」力を付けていくことが課題である。
○目標設定への意識が低く、中には夢や目標がまだ見つかっていない子「たくましく生きる子」に関する項目が低めである。「夢をもつ」ことが難しい子もいる。まずは、自己肯定感を高めることにつなげたい。
○1～9年の縦割り活動で、いじめ問題や「できるようになりたいこと」について話し合う場がもてたことがよかった。他の人の意見を聞き、自分の考えを広めたり深めたりすることの楽しさを感じている。
○実行委員会主体で練り上げた運動会、学級体制でのみさとパビリオンと子供たちが「自分たちで創り上げた」という思いを持てる行事となり、生き生きと活躍する姿が見られた。

3. 学校運営協議会による学校関係者評価

○今年度重点とした「主体性の育成」は、教職員の評価から、意識して取り組んだが、成果としてはまだ表れていないと思われる。今後も継続していくことで、子供の姿につながっていくと思われる。
○肯定的な回答が低い項目は、「わからない」の回答が多いので、質問の仕方を検討してはどうか。また、いじめ対策、家庭学習等についての取組について、保護者にきちんと伝わっていないことが伺える。
○複式学級について、年度当初に比べ、とても落ち着いて授業を行えている。子供が、「学習リーダー」として授業をリードすることで、主体性にもつながっていると思われる。
○家庭学習について、「課題」から「自分に必要な学びを考えて取り組む」学習にしていこうという学校の考えが、保護者に伝わっていないことを感じる。保護者にも理解を得られるような取組が必要である。
○重点項目について、やや数が多いと感じる。数を絞る、または、年度ごとに最重要項目を決める等したらどうか。
○タブレット端末の使い方について、各学年・発達段階に応じて、使い方を継続的に指導していくことが必要である。

4.　今後の改善方策 （第１回教育課程検討会を終えて　１月7日時点）

○学校運営の重点の見直し→重点と取り組みを分け、精選する。　○保護者のアンケート結果で 70%未満の項目は、「わからない」の回答が多かった。→　学校評価アンケートの項目（文言）の見直しを行う。
○「児童生徒の主体性の育成」については、継続して意識的に教育活動を行い、さらなる推進を目指す。主体的な挑戦が一時的なものではなく、継続し「粘り強く取り組む」ことができるように、各教科の授業、学校生活、行事等を通して「自分に合った目標を立てられる」「自己調整する力を身に付ける」ように教職員がファシリテートしていく。また、みさと会を中心にした話し合い活動、「一日の生活・マナーとルール」「3つのほこり」の見直しを進める。
○個別最適な学びと協働的な学びをさらに一体的に充実させるために、タブレット端末の効果的な活用を推進する。また、情報モラル、端末利用のルールの指導の充実を図り、情報リテラシーの育成を図る。
○「安心できる居場所づくり」を重点に据え、いじめを生まない環境づくり、多様な教育的ニーズに応じた支援を実現するため、発達支援教育の理念に基づく児童理解・組織としての支援体制構築に努める
○「『引北（みさと）らしさ』を生かした教育活動」として、ふるさと科・国際コミュニケーション科の充実だけでなく、異年齢集団交流（幼小中交流）や多様な個の相互理解の推進を図る。
○「学習リーダー」を中心に子供主体で進める複式授業について、今後も複式担任だけでなく全教職員で校内研修を行っていく。